

行政視察等報告書

平成28年12月27日

境港市議会
議長 岡空 研二 様

会派名 きょうどう
代表者 米村 一三



下記のとおり行政視察（調査・研修）を行ったので、その結果を報告します。

記

1 視察等期間	平成28年11月28日（月）～11月29日（火）
2 視察等先 及び内容	① 平成28年11月28日（月） 13:30～15:30 NPO法人 尾道空き家再生プロジェクト 広島県尾道市三軒家町3-23 【 空き家再生プロジェクトの取り組みについて 】 ② 平成28年11月29日（火）10:00～11:00 せとうち SEAPLANES 広島県尾道市浦崎町1364-6 【 せとうち SEAPLANES の取り組みについて 】
3 視察等議員	濱田 佳尚
4 総 経 費	合計（1名） 22,968円（一人当たり 22,968円） ※一人当たり経費に端数が出る場合は円未満切り捨て
5 所 見 等	別紙のとおり

内 容：①空き家再生プロジェクトの取り組みについて

報告者：濱田 佳尚

所見等：

尾道は古くから港町として発展し、近代では文学・映画・坂の町として広く知られている。時代の流れによって駅前や港湾は開発が進む一方、車の入らない斜面地や路地裏は古い家並みが多く残されている。そういった状況の尾道で、物件探しから定住支援まで移住希望者をサポートしている団体が「NPO 法人尾道空き家再生プロジェクト」である。

会員の約半数は、斜面地に住んでおり、空き家への引越しや改装作業を、NPO 会員や地元相互で協力するなど、「空き家」を通じたまちづくりネットワーク・コミュニティを形成している。

尾道市から 2009 年より受託している「空き家バンク」事業は現在、登録数約 150 件でこれまで約 90 件ものマッチングを成立させ、結果的に約 150 人の移住者を生み出している。

2012 年には駅前商店街の空き店舗を再生しゲストハウスの経営に乗り出し、現在では、総収入のうち、ゲストハウスの収益が半分以上を占め、あとは他の物件の家賃収入、「空き家バンク」の受託金、個人会費・寄付金、グッズの販売、講演会や見学の謝礼などとなっている。このゲストハウスが尾道に移住してきた若者にとっての雇用の場にもなっている。

尾道市ではリノベーションにかかる費用を補助するなど行政、NPO 双方の特性を活かした協働が行われている。境港市においても、空き家を問題として捉えるのではなく、資源として活用していく発想が求められる。また、空き家を魅力のある資源として活用するには、空き家バンクに登録するだけでなく相応のアイデアや市からの援助も必要と考えられる。

内 容：②せとうち SEAPLANES の取り組みについて

報告者：濱田 佳尚

所見等：

せとうち SEAPLANES は、2016 年 8 月 10 日から水陸両用機を利用した瀬戸内遊覧飛行サービスを開始した。

せとうち SEAPLANES が提供する「せとうちディスカバリーフライト」は、尾道市浦崎町（境ガ浜）にあるオノミチフローティングポートを発着地に、尾道水道～因島～生口島（サンセットビーチ）～多々羅大橋～能島～岩城島・生口島の間～尾道水道と巡る遊覧飛行で、水陸両用機を用いて水上から離発着するのが特徴である。当面は 1 日 4 便の運航となる。飛行自体は約 30 分で、桟橋から離着水地点までの往復にそれぞれ 10 分程

度を見込んで、およそ50分のスケジュールとなっている。

問題点としてトイレがないため、長時間の運航は現実的には難しく、また悪天候時には飛行できない(キャンセル)となってしまうという点が挙げられる。当面は、国内外の認知度のアップ、新たな大型の水陸両用機の導入、水上機運航を行なうパイロットを養成するフライトスクールに努めていくとのことであった。

天候に影響されやすい、認知不足等の問題はあるものの、国内唯一の水陸両用機事業は新たな観光事業の発掘、また、富裕層の交通手段、災害時の救援等の可能性を秘めている。中海や米子空港を拠点にすれば山陰にも良い効果が得られると考えられる。

現在、せとうち SEAPLANES 松江市との連携していけるよう話を進めている。境港市としてもこの新たな取り組みに取り残されないように動向を注視する必要がある。